

都市再生整備計画(第4回変更)

こうべながた
神戸長田地区

ひょうご こうべし
兵庫県 神戸市

令和7年12月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	■
都市再生整備計画事業(社会資本整備総合交付金)	□
都市再生整備計画事業(防災・安全交付金)	□
まちなかウォークアブル推進事業	□

都市再生整備計画の目標及び計画期間

様式(1)－②

都道府県名	兵庫県	市町村名	こうべし 神戸市	地区名	こうべながたちく 神戸長田地区	面積	158	ha
計画期間	令和	4	年度	～	令和	9	年度	
				交付期間	令和	4	年度	～
					令和	9	年度	

目標

大目標：長田区の主要駅である新長田駅（JR、神戸市営地下鉄西神・山手線、海岸線）、長田駅（神戸市営地下鉄西神・山手線）、高速長田駅（神戸高速鉄道）を中心に、駅周辺のリノベーションを図り、まちの一層の魅力向上や活性化を図る。

○駅の拠点性向上によるまちの活性化

○駅周辺のにぎわい創出

目標設定の根拠

都市全体の再編方針（都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の方針を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針）

本市では、50年先も心地よく健やかに住み続けられるまちをめざし、「コンパクト・プラス・ネットワーク」「様々な分野との連携」といった観点で取り組みを進める。

■コンパクト・プラス・ネットワーク

・人口減少や多様なライフスタイルに対応した都市計画制度等の適切な運用をすべく、原則として住宅開発等による市街化区域の拡大を抑制し、良好な既存ストックを有効に活用する。

・広域型都市機能の維持・充実・強化として、広い範囲をサービスの対象とする広域型都市機能を、都市の中心となる拠点や生活の中心となる拠点に誘導する。

・便利で快適・効率的な人と物の移動環境の確保として、市域を越える広域交通ネットワークと連携を図りながら、総合的な交通環境の形成をめざし、鉄道やバスなどの公共交通を中心とした交通ネットワークの維持・形成を推進する。

■様々な分野との連携

・都市計画だけでなく住宅、公共施設、医療・福祉、子育て、教育などまちづくりに関する様々な分野と連携を図りながら施策を推進する。

・市街化区域においては、地域の課題に応じて「生活関連サービスの確保」「良好な地域コミュニティの維持」「安定した雇用の創出・子育て環境の向上」など関連する施策を推進する。

・市街化調整区域においては市街化区域と「連携」しながら施策を推進し、防災上課題のある箇所についても市民の命を守るための施策に取り組む。

まちづくりの経緯及び現況

・新長田駅南側の駅前広場は、平成2年度から平成12年度にかけて新長田駅前地区第一種市街地再開発事業により整備された。また、新長田駅の南側においては、平成6年度より「新長田駅南地区震災復興第二種市街地再開発事業」を進めている。

・平成23年3月に公表した「神戸市都市計画マスタープラン」において、当該地区は「産業・歴史・文化を活かして再生する先導エリア」として、住み、働き、訪れる人にとって魅力的なまちに再生することとしている。また、新長田駅周辺は「都心拠点」とし、駅周辺の高い利便性や多様な地域特性を活かして、商業・業務機能、文化・交流機能、住機能などの集積を図ることとしている。

・令和2年3月に公表した「神戸市都市空間向上計画」において、本計画の対象駅周辺はいずれも駅・主要バス停周辺居住区域（居住誘導区域）および広域型都市機能誘導区域（旧市街地型）に設定されている。

・新長田駅周辺では、令和元年7月に新長田合同庁舎（兵庫県、神戸市）が竣工し、令和5年度に県立総合衛生学院の移転が予定されている。また、令和5年度に西市民病院の移転が正式に公表され、更なる来街者の増加が見込まれている。

課題

・新長田駅周辺は、来街者減少によるまちの活力低下が進み、放置自転車数が非常に多く、人が滞留できる空間が少ない。

・新長田合同庁舎の完成等を受けて、駅の拠点性の向上を図り、駅周辺のまちの活性化に繋げていくことが必要となっている。

・地下鉄長田駅前空間は交通結節点として、歩行者の往来が非常に多い場所でありながら、駅前空間に配置されている駐輪場の容量を遥かに超える放置自転車が歩行者空間を狭めており、人が滞留できる空間が少ない。

将来ビジョン（中長期）

●神戸市都市計画マスタープラン

新長田駅周辺は「都心拠点」とし、駅周辺の高い利便性や多様な地域特性を活かして、商業・業務機能、文化・交流機能、住機能などの集積を図ることとしている。

●神戸市都市空間向上計画

本計画の対象駅周辺はいずれも駅・主要バス停周辺居住区域（居住誘導区域）および広域型都市機能誘導区域（旧市街地型）に設定されている。

●無電柱化推進計画

本市の無電柱化の基本方針として、本計画では市街地の緊急輸送道路および景観・観光振興に必要となる全ての道路において無電柱化を推進することとしている。第8期実施計画において、神戸長田地区では市街地の緊急輸送路である神戸明石線（北町～西代）などが位置付けられている。

都市構造再編集中支援事業の計画

都市機能配置の考え方

・多くの駅が集積し、面的に広がる六甲山系南側の既成市街地において、商業・業務、文化・教育・観光機能など様々な機能の維持・充実に図る。

都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
				基準年度	目標年度		
歩行者通行量	人/日	駅前における1日当たり平均歩行者通行量	駅の拠点性向上及び駅を中心としたまちのにぎわい向上の指標となる	新長田駅：9,384人/日 長田駅：3,163人/日	令和元年度	新長田駅：9,500人/日 長田駅：3,500人/日	令和9年度
放置自転車台数	台/日	地下鉄長田駅周辺及び新長田駅周辺の放置自転車台数（平日の延べ台数）	地下鉄長田駅周辺及び新長田駅周辺のアクセス機能向上の指標となる	新長田駅：374台 長田駅：186台	令和元年度	新長田駅：302台 長田駅：47台	令和9年度

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>【駅の拠点性向上によるまちの活性化】</p> <ul style="list-style-type: none">・駅前空間を整備し、駅の拠点性を向上させることで、駅を中心としたまちの活性化を図る。	<p>【基幹事業】</p> <ul style="list-style-type: none">・(道路)兵庫駅鷹取線・(地域生活基盤施設)地下鉄長田駅周辺(自転車駐車場(その2)) <p>【関連事業】</p> <ul style="list-style-type: none">・無電柱化推進計画事業・(第2世代交付金)拠点整備事業・ソフト事業:新長田駅周辺エリアの活性化
<p>【駅周辺のにぎわい創出】</p> <ul style="list-style-type: none">・地域住民や駅利用者等の憩いの空間を整備し、まちのにぎわい創出を図る。	<p>【基幹事業】</p> <ul style="list-style-type: none">・(地域生活基盤施設)地下鉄長田駅前空間(広場)・(地域生活基盤施設)地下鉄長田駅周辺(自転車駐車場)・(エリア価値向上整備事業)地下鉄長田駅前空間沿道民地活用に係る整備 <p>【提案事業】</p> <ul style="list-style-type: none">・(事業活用調査)地下鉄長田駅前空間・(事業活用調査)地下鉄長田駅前空間沿道民地 <p>【関連事業】</p> <ul style="list-style-type: none">・新長田駅南地区震災復興第二種市街地再開発事業・(第2世代交付金)拠点整備事業・ソフト事業:新長田駅周辺エリアの活性化
その他	

様式(1)-④-1

(金額の単位は百万円)

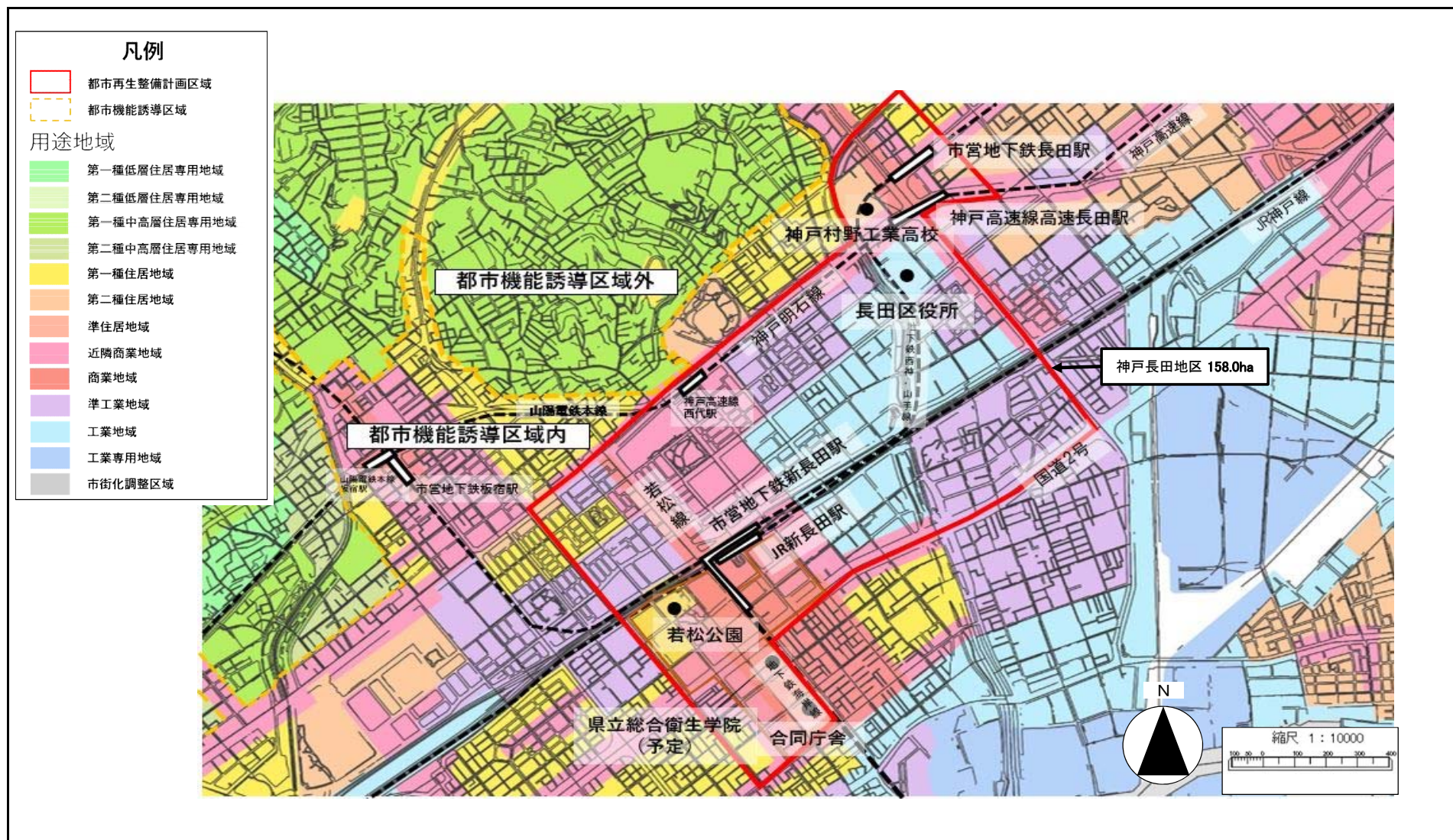
...A

..B

	合計(A+B)	388.4
--	---------	-------

[illegible]

面積	158	ha	区域	神戸市長田区若松町1～5丁目 他
----	-----	----	----	------------------



目 標	駅周辺のリノベーションを図り、まちの一層の魅力向上や活性化を図る。 ○駅の拠点性向上によるまちの活性化 ○駅周辺のにぎわい創出	代表的な指標	【新長田駅】歩行者通行量（人/日）	9,384	（R1年度）	→	9,500	（R9年度）
			【長田駅】歩行者通行量（人/日）	3,163	（R1年度）	→	3,500	（R9年度）
			【新長田駅】放置自転車台数（台/日）	374	（R1年度）	→	302	（R9年度）
			【長田駅】放置自転車台数（台/日）	186	（R1年度）	→	47	（R9年度）



都市構造再編集集中支援事業事前評価シート

計画の名称: 神戸長田地区 事業主体名: 神戸市

チェック欄

I. 目標の妥当性	
①都市再生基本方針との適合等	
1) まちづくりの目標が都市再生基本方針と適合している。	○
2) 上位計画等と整合性が確保されている。	○
②地域の課題への対応	
1) 地域の課題を踏まえてまちづくりの目標が設定されている。	○
2) まちづくりの必要性という観点から地区の位置づけが高い	○
II. 計画の効果・効率性	
③目標と事業内容の整合性等	
1) 目標と指標・数値目標の整合性が確保されている。	○
2) 指標・数値目標と事業内容の整合性が確保されている。	○
3) 目標及び事業内容と計画区域との整合性が確保されている。	○
4) 指標・数値目標が市民にとって分かりやすいものとなっている。	○
5) 地域資源の活用はハードとソフトの連携等を図る計画である。	○
④事業の効果	
1) 十分な事業効果が確認されている。	○
2) 事業連携等による相乗効果・波及効果が得られるものとなっている。	○
III. 計画の実現可能性	
⑤地元の熱意	
1) まちづくりに向けた機運がある。	○
2) 住民・民間事業者等と協力して計画を策定している。	○
3) 継続的なまちづくりの展開が見込まれる。	○
⑥円滑な事業執行の環境	
1) 計画の具体性など、事業の熟度が高い。	○
2) 交付期間中の計画管理(モニタリング)を実施する予定である。	○
3) 計画について住民等との間で合意が形成されている。	○